

寂しい子たち

En D C B7

馬車前を出た ^C 広い通り ^D 薄曇りの中を ^G

^C 綺麗すぎる ^{An} インターロッキング ^{En} 動かない ^G 空間 ^{D-Bm} ^{En} ^D

^G あれは ^D 随分 ^{En} 前の ^C 夏の日

^{En} 甲子園 ^C やく ^D 高校 ^{En} 野球部 ^D

^G 喜びが伝わる音 ^D ^{En} ^G 商店街の放送 ^C ^{En} ^D ^{B7}

^G その音 ^D 聞きたか ^{En} らか ^G いてた

^C ソフトクリーム ^{En} の夜 ^D ^{B7} ^{En} クラニ人で

若かったあの頃 確かに ^C たくさ ^D の通り ^G すかり

全く ^C 気に ^{An} せず ^{En} 歩いた ^G 道 ^{D-Bm} 本当に ^{En} 二の ^D まち ^{En} 付 ^D のか

今 ^C 横目 ^D で ^{En} やつ ^G と ^C ひと ^{En} ツ ^D の ^{B7} 人

背 ^C を ^D カ ^{En} が ^G め ^C て ^{En} 立 ^D ち ^{En} す ^D く ^{En} ん ^D で ^{B7} いる

その姿 ^C を ^D 見 ^{En} か ^G い ^C て ^{En} わ ^D ざ ^{En} と ^D 遠 ^{En} く ^D 見 ^{En} つ ^D け ^{B7} て

目的 ^C ある ^D よう ^{En} な ^G 顔 ^C と ^{En} して

足 ^C 早 ^{En} に ^D 面 ^{B7} り ^{En} す ^D ぎ ^{En} る ^D そ ^{En} う ^D ー ^{En} 人 ^D で

トロッコ電車

^C ^G ^{Em} ^D ^C ^G ^{Em} ^D
 始発のホームを出たら赤い橋

^C ^G
 深緑の中 眩しく

^G ^D
 ガラスのない窓から見おろす

^C ^G
 煌めく川の流水の向こう

^{Em} ^D ^C ^D
 その先の目の高さにホテルの赤い屋根白い壁

^{Em} ^D
 昨日のこぼれに懐かしい

^C ^D ^{Em} ^D
 くつろぎの時 もう過ぎてゆく

* ^G ^C ^D ^{Em}
 今ここに見える夏の瞬間

^G ^C ^D ^{Em}
 賑やかなセミたちの声の中

^C ^D ^{Em} ^C ^D ^G ^{Em}
 確かに聞こえたひびく声

見えてきたダムに向かって広がる

エメラルド色の水面の

上下対象の景色の上に

登山者のような鉄塔いくつか

すれ違う電車を待って再び動きだすダムを過ぎる

見えなくなった空を見上げ

稜線の高さやっとなんか確かめられる

★～★★

Capo. 4 1-214 Am

Ch

砂を踏みしめて

Am F G C Am F G C

Am C G Am
白い砂浜 見下ろすあたり

Am C G Am
黒く小さく 見える動きをみうけ

C Am F Dm
誰もいない 波打ち際

C Dm G Bdim C
靴の跡も 左に波の音か

* Am F
足跡、(つぎ)についても

G C
すいになくなる

Am F
あなたと えられるこのとき

G C
いつまで だろうか **

薄曇りの空 ビンからの照らされて

影も見えない.. 砂を踏みしめて

いつの間にか 裸足にたどり

脱いだ靴を手にしながら 波の上を

* ~ **

うづめく光

An G En Ar An G En An

F G F G An
歴史ある灯台に 上り詰めて 海を見たF G F G G C
飛ばされそうな帽子を押しさえ見下ろす波 うづめく光An G En An
コンクリートの階段 2枚りながら巻いてAn G En An
降りる人ともすれちがひ 最後のハシゴまで来たAn G En An
背中をぶつめたような穴をくぐったところでAn G En An
最上階のスラブから 飛び出し 外に出られたC Dm G C
はるかには見える遠くを 広がる大海原にC Dm G An
流れる波の大きさにも 圧倒されそうになる

下に降りて見上げれば 綺麗な白空に映える

灯台守に守られて 波のまにまに白く光る

無料駐車場から サンロードを渡って

海岸につかせる 広い階段降りて

波食台地のスキマに 歩き回る小ガキが

波が打ち寄せるたびに 隠れて見えなくなる

目の前しぶきを感じて 広がる大海原に

打ち寄せる波の音にも 圧倒されそうになる

東見れば 日本一の山が見える 御前崎

空の中に 頂が浮かぶように 白く光る

夏祭り

E_m

E_m

まだ子お明る.. 夕方の公園

四つのカレー鍋の前 四列の人

いくつかの手持ち花火 思.. 思.. に

近所の于使達 こんな.. いたのか

E_m
灯した提灯が オレンジ色に笑り

僕たちは正面に向き直る

G An C G
滝のように流れてゆく 大きな太鼓たたく音の

G An C G
夜空から反射して 体の中流れる

E_m
公園の端の方では 金魚すくい

ヨーヨーすくいをして けしゃく.. 于使達

G
ヨーヨーすくえびくて泣.. てる子に

それをあげている 男の子がいる

E_m
灯した提灯が ひとつ.. 消えた.. とす

僕たちは正面に向き直る

G An C G
滝のように落ちてゆく 大きな仕掛け花火が最後

G An C G
綺霞で儚い光放ち 夢のように流れる

E_m C
夜風に 揺らてる

D G
光のカーテン

E_m C
儚く消えてく

D G
綺霞を 夢の.. しく

E_m
流れ落ちた後に 再びの.. おかり

今度は 帰り支度のための.. おかり

G
心の奥に残った.. その余韻は

この夏の夜が作り 彩る.. 奇跡..

E_m
三人で手を.. つないで.. 帰る道

夏祭りの夜は 特別な.. ひ.. とす

静寂の中で.. 溶けゆく.. 笑い..

熱気に包まれゆく.. 夢の.. 時間

走馬灯

G Em C D G Em C D G
これまでの思い出 何十年もの思い出

G Em C D G Em C D G
頭の中で一瞬で 目の前の写真で

G Em C D
目にしたものの 聞いた言葉

C D G Em
口にされたもの 聞いたにおい

G Em C D
住していた場所 家族の顔

C D G Em
遊んだ場所 友達の声

G Am G D
当時聴いていた レコードの歌

G Am G
思い出す 走馬灯のように

G Am G D
不思議なことに 忘れかけたが...

G Am G
あの火の玉と 言葉が

G Am G D G Am G

これまでの思い出 何十年もの思い出

頭の中一瞬で 目の前の写真で

色が分からず 聞きとれなく

味が分からず すぐ消えてゆく

浮かぶ場所 部分的で

遊んだ場所 あそびたかった

当時集めていた 宝物

思い出す 走馬灯のように

不思議なことに 一つもない

あの頃の自分のもの

どんなにゆずかな ことども

フ 2 フ 2

G En G En

2 0 10 0 フ 9
En D C D G B7

どんなに小さな"でも 最後は海につながる

2 0 10 0 2
En P C D D7 En

つながる海と海は 海峡を 行き来している

2 0 2
En D En F 2 D 0 フ 9
En D En

流されるのではなく 流に乗ることだ

2 0 10 0 5
En D C P G

世の中の動きに 逆らうことはできない

10 5
C G
深海泳ぐカメのように

0 5
P G
深いところに その身をかくし

10 5
C G
流れるような固い甲羅で

0 2
D D7 En
怯むことなく 手足を動かす

1-マール

どんなにゆずかな ことども 抵抗感 感じたことには

流氷を素直に受けとめること きっと大きな力が働いている

巻き込まれるのではなく 波に乗ってゆくことだ

たとえ遠回りでも 目標 変えればいい

大きな海に 生かされている

自分の位置を 確かに感じて

振り回される 事態を避けて

心を乱す ことない ふうに